

道徳科の授業づくりのために

～「特別の教科 道徳」(道徳科)実施に向けて～



平成29年2月
山口県教育委員会

「特別の教科 道徳」(道徳科) 実施に向けて

☆ これからの道徳教育について、ポイントを確認しておきましょう。

◆ 道徳教育の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

◆ 道徳科の目標

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

※()内は中学校



◆ 内容項目分類の4つの視点

- A 主として自分自身に関すること
- B 主として人との関わりに関すること
- C 主として集団や社会との関わりに関すること
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

児童生徒にとっての対象の広がり to 即し、従来の3番目、4番目が入れ替わりしました。

◆ 検定教科書の導入

小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から検定教科書が主たる教材になります。副教材として、県教育委員会が作成した資料や文部科学省が作成した教材なども活用できます。

各市町で作成した教材も含め、年間指導計画に位置付けておくことが大切です。別葉も含めて、しっかり見直しをしましょう。

◆ 「考え、議論する道徳」への転換

具体的には、「多様な考え方や感じ方と出会い交流し、主体的に自分との関わりで考える授業」です。他の人との関わりの中で児童生徒が自らを振り返って成長を実感し、これからの課題や目標がもてるように授業を構想していきましょう。

自作教材を使用する場合は、ねらいの達成にふさわしいか、人間尊重の精神にかなうものかなどについて協議し、判断することが大切です。

扱う内容や教材に応じて、指導方法を工夫することが大切です。

道徳科の授業づくりのために

確認しておくこと

- ① 学校の重点内容項目、授業の内容項目、学習指導要領解説
- ② 内容項目に対する指導者の明確な考え(価値観)
- ③ 内容項目に対する児童生徒の現状把握(児童生徒観)
- ④ 価値観、児童生徒観に基づく教材活用(教材観)

明確な価値観・児童生徒観・教材観をもつことで、授業のねらいも明確になり、道徳的価値の理解に結び付く授業になります。



教材の分析

- ① 育てたい道徳性(道徳的判断力、心情、実践意欲と態度)
- ② 内容項目に対して中心的に考えさせる場面
- ③ 中心的な発問と他に必要な発問
- ④ 効果的な指導方法(多様な指導方法)

育てたい力、考えさせる場面によって発問は変わります。自己を見つめるための発問も必要に応じて考えます。

例

読み物教材の登場人物への自我関与中心の学習 ○登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考える学習方法 (例)・どうして、このような行動をとることができたのだろうか	問題解決的な学習 ○問題場面における考えの根拠を問う、道徳的価値の意味を考える学習方法 (例)・本当の友情とは何だろうか ・その行為を選んだわけは何ですか	道徳的行為に関する体験的な学習 ○実際の場面を実感を伴った活動により道徳的価値の理解を深め、解決に必要な資質・能力を養う学習方法 (例)・役割演技 ・行為の体験
---	---	--

評価について

- ① 評価方法の決定
- ② 重点的に見取る視点の決定

「児童生徒の学習状況」「道徳性に係る成長の様子」を内容項目ごとではなく、年間35時間の学習活動全体を通して見取り、評価をしていきます。

重要語句の解説

【道徳的諸価値の理解】
価値理解……道徳的価値は人間としてよりよく生きる上で大切であると理解すること
人間理解……道徳的価値は大切であるが、なかなか実現できない人間の弱さも理解すること
他者理解……道徳的価値の実現に向けて、感じ方、考え方は多様であることを理解すること

【道徳性の諸様相】
道徳的判断力……それぞれの場面で善悪を判断する能力
道徳的心情……道徳的価値の大切さを感じ取り、善を喜び、悪を憎む感情
道徳的実践意欲……道徳的判断力や心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意思の働き
道徳的態度……道徳的判断力や心情及び実践意欲に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

話し合いの工夫

教材の概要

ネパールに撮影に来ていたカメラマンの吉田さんが、安易な気持ちでネパールの子もチェトリ君にビールを買ってくるように頼んだ。2日経ってもチェトリ君は帰って来ず、心配や後悔をする吉田さんであったが、3日目の夜に、ぼろぼろになりながらもビールを買って帰ってきたチェトリ君の姿に涙する。

主な発問

後悔と反省はどう違うのだろう。

吉田さんは、あんなに深く、いろいろ何を反省したのだろう。

あんなに深く、いろいろと反省した吉田さんはどんな生き方をしているのだろう。



<ポイント>

- ◆自由に意見が出し合える雰囲気づくり
- ◆効果的な話し合いの仕方（討議形式・ペアでの対話等）

指導の工夫

多様な視点を導き出す中心的な発問について、多面的・多角的に考えながら、考えを深める手立として、付箋と大判用紙を活用しました。個人の考えを付箋に書いて、班ごとに大判用紙に貼り付けていき、話し合いながら自分たちで比較・分類し、見出しを付けるように指示しました。考えを可視化し、対話・協働しながら比較、分類することで、生徒の思考に十分な深まりが見られました。

中学校1年 主題名「よりよく生きる喜び」 教材名「ネパールのビール」（出典 文春文庫）

発問の工夫

教材の概要

町内会の草刈り作業に家庭の代表として参加してほしいと母親から頼まれた明は仕方なく参加する。町内会の人に教えられながら草刈り作業をしていくうちに、お年寄りには重労働である仕事があることに気づき、自ら進んで作業をする。そのことによって、町内会の人々に、中川家の代表として受け入れられる。自分も少し大人になったような気がし、いつもの母のカレーを甘いと感じる。翌日から自ら進んで町の人々と関わろうとする。

主な発問

「よし。」と言って、草や枝を運び始めたのはどんなことを考えたからだろう。

明が「なんだか大人になったような気持ちがした。」のは、なぜだろう。



<ポイント>

- ◆生徒の思考を予想し、それに沿った発問
- ◆考える必然性、切実感のある発問
- ◆自由な思考を促す発問
- ◆物事を多面的・多角的に考える発問

指導の工夫

主人公の気持ちや行動が大きく変容するところに着目し、中心的な発問を設定しました。さらに、主人公が道徳的価値についての理解が深まったところを問い、二段構えの発問でねらいに迫るようにしました。

中学校2年 主題名「自主、自律、自由と責任」 教材名「町内会デビュー」（出典 中学校道徳読み物資料集）

板書を生かす工夫

教材の概要

体育の時間のポートボールの試合に負けた原因が友達にあると腹を立てたさとし。しかし、チームの一員であるかざやが一人で練習をしている姿を見て、徐々にかざやの頑張りを理解していき、チームメイトと練習しながら再び試合に挑む。

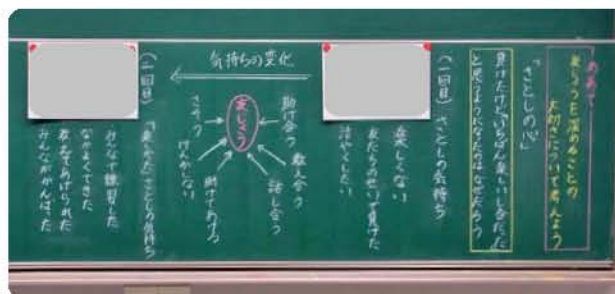
主な発問

一回目と二回目の試合後ではさとしの気持ちはどう変わったのだろう。

負けたけど「一番楽しい試合だった。」と思うようになったのはなぜだろう。

友情を深めることが、なぜ必要なのだろう。

もっと仲良くするためには、どうすればよいだろう。



<ポイント>

- ◆違いや多様さを対比的・構造的に示す工夫
- ◆中心部分を浮き立たせる工夫
- ◆児童生徒の考えを取り入れる工夫

指導の工夫

それぞれの試合後のさとしの心情を対比して板書することで、心情の変化を視覚的に捉えられるようにしました。

小学校3年 主題名「友情、信頼」 教材名「さとしの心」（出典 文溪堂）

授業づくりの手順



ねらいは？

指導の内容や教師の指導の意図を明らかにします。
年間指導計画を基に考えます。

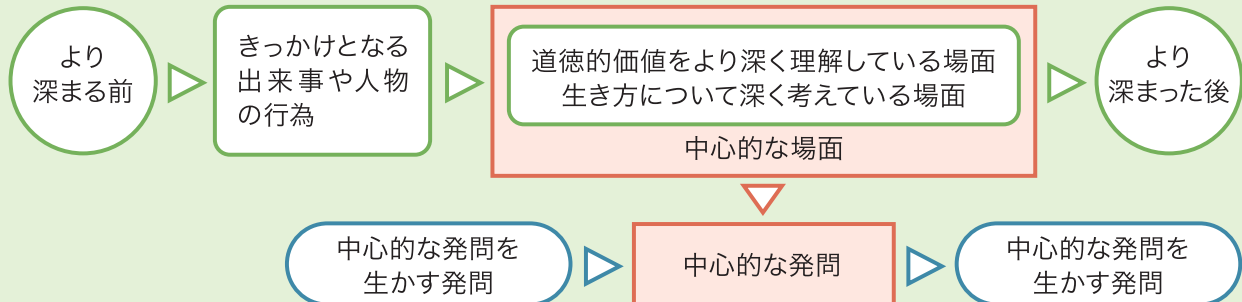


指導の重点は？

ねらいに関する児童生徒の実態と、各教科等での指導との関連を検討して、指導の重点を明確にします。

教材を吟味する②

【読み物教材の分析】 ～登場人物の道徳的価値の理解の深まりを見てみると～



【発問づくり】 ～発問の具体例は～

- 「自分だったらどう考えるだろう」
 - 「自分だったらどうしただろう」
 - 「なぜ～したのだろう」
 - 「こんなとき、どうすればよいのだろう」
 - 「～はどんな気持ちだろう」
 - 「なぜ～は大切なのだろう」
 - 「～のことをどう思う」
 - 「どうして～できたのだろう」
 - 「何が問題になっているのだろう」
- など

家庭や地域社会との連携

教材の概要

会社に勤めながら視覚障害者ランナーの伴走者としてボランティア活動を始めた鈴木邦雄さんに焦点を当て、彼の生き方や考え方、そしてメッセージに込められた思いに触れる。

主な発問

鈴木さんが、このメッセージで伝えたいことは何だろう。

あなたが、仕事をする上で大切にしたいことは何だろう。



<ポイント>

- ◆積極的な授業公開
- ◆保護者や地域の方々の授業参加
- ◆家庭や地域の協力による教材の開発

教材を吟味する①

次のポイントを踏まえ、教材の分析をします。

- 【教材の分析】
1. 「どのようにして道徳的価値の理解を深めるか？」
 - どのようにして「価値理解」「人間理解」「他者理解」を図るか。
 - どのようにして自分との関わりで道徳的価値を捉えさせるか。
 2. 「中心的な場面は？」
 - ねらいや価値観、児童生徒観に基づいて、道徳的価値の理解を深めるのにふさわしい場面はどこか。
 3. 「中心的な発問は？」
 4. 「中心的な発問を生かすための発問は？」

教材は？

児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。



学習指導過程は？

ねらい、児童生徒の実態、教材の内容などを基に、授業の展開について考えます。

考え、議論する道徳

学習指導過程を構想する

道徳科の特質を十分考慮した学習指導過程や指導方法を工夫することが大切です。

- 【特質】 道徳的諸価値についての理解を基に、
- 自己を見つめる
 - 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える
 - 自己(人間として)の生き方についての考えを深める ※ ()内は中学校

- 【導入の工夫】
- 主題に関わる問題意識をもたせるようにしましょう。
 - 教材の内容に興味や関心をもたせるようにしましょう。
- 【展開の工夫】
- 教材に描かれている道徳的価値に対して児童生徒一人ひとりの考え方や感じ方を交流し、考えを深めるようにしましょう。
 - 主題を明確にし、児童生徒が問題意識をもち、自分との関わりで(人間としての生き方についての)考えを深めていく学習にしましょう。
- 【終末の工夫】
- 児童生徒一人ひとりが、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき、確かめることができるようにしましょう。

問題解決的な学習

教材の概要

19年間の刑期を終えて、牢屋から出たもののどこの宿にも泊めてもらえず、食事もできず、困り果てているジャンを、ミリエル司教は、自分の教会に招き入れ、食事をふるまい、寝る場所を用意する。その夜、ジャンは銀の食器を盗み、逃げ去ってしまう。次の日、ジャンを捕らえた兵隊に、司教は、銀の食器はジャンにあげたものだと言う。さらに、「銀の燭台も忘れていきましたね。」とジャンに手渡す。

主な発問

ミリエル司教のしたことは、良いことだったのでしょうか。



<ポイント>

- ◆多面的・多角的な思考を促す問題の設定
- ◆道徳的価値に根差した問題に関わる学習
- ◆議論し、探究するプロセスの重視

指導の工夫

児童が主体的に考えることができるように、また、お互いの考えを深めることができるように、「よいことだと思う」「よくないことだと思う」の二つの立場に分かれて、そのように考えた理由について話し合いました。終末では、話し合いの内容を踏まえ、児童自身の経験についても振り返るよう促しました。

小学校6年 主題名「相互理解、寛容」 教材名「銀のしょく台」(出典 私たちの道徳)

体験的な学習

教材の概要

かめ、あひる、白鳥が池の中の島へ行こうとした際に、一緒に連れて行ってほしいというりすに、泳げないから駄目だと断ってしまう。りすがいないまま遊んでも楽しくなかったみんなは、次の日、りすが昨日のことを謝り、今度はりすをかめの背中に乗せて、みんなで島に向かう。

主な発問

友達と一緒に遊んでいて、楽しいときはどんなときですか。

「泳げないからだめ。」と言われて、りすさんはどんな気持ちだったでしょう。

島に着いて、遊んでいるとき、三匹はどんな気持ちだったでしょう。

みんなで島へ行っているとき、あなただったらどう思いますか。

お話に出てきた動物に、手紙を書きましょう。



<ポイント>

- ◆役割演技等の疑似体験的な表現活動
- ◆道徳的行為に関する体験的な活動
- ◆ねらいに基づいた活動

指導の工夫

自分の考えをワークシートに書いた後、ペアで意見の交流をしたり、ホワイトボードにまとめたりしました。その後、全体の発表ではペープサートを用いて役割演技を行い、学び合いが深まるようにしました。

小学校1年 主題名「友情、信頼」 教材名「おかげないりすさん」(出典 「わたしたちの道徳」)

情報モラルと現代的な課題

教材の概要

家でインターネットを使っていたあつしは、興味深いサイトを見つけ、母との約束を破ってそのサイトを見てしまう。自分の名前や連絡先の入力を求められ、一度は画面を切ったあつしだったが、「少しだけなら」と思い直し、再びそのサイトに名前を入力しようとする。そのとき、タイマーが鳴り、自らを省みる。

主な発問

ゲームについてのアンケート結果です。「90人中40人」これは、何の人数でしょう。(答え:学校から帰って2時間以上ゲームをしている4年生の数)

お母さんが、「ちゃんと使えたのね。約束を守ってえらかったね。」とあつしを褒めたのはなぜでしょう。

あつしの行動から考えたことをもとに、コンピュータや携帯電話などの使い方について考えましょう。



<ポイント>

- ◆道徳科の特質を生かした指導(情報モラルに関わる題材を生かした話し合い等)
- ◆身近な問題と結びつけた指導
- ◆発達段階や特性に応じた指導

指導の工夫

事前アンケートを実施し、その結果を示すことで児童自身の課題として捉えられるようにしました。中心となる発問で節度についてしっかり考えを深めるようにし、終末では、「じょうほうモラル(わたしたちの道徳)」を使って、より実践的な態度が身に付けられるようにしました。

小学校4年 主題名「節度、節制」 教材名「少しだけなら」(出典 わたしたちの道徳)

道徳科の授業づくりのポイント

☆ 授業づくりの際に、チェックしてみましょう。

授業づくりのポイント	チェック
① 学習指導要領解説や年間指導計画に基づいたねらいを設定していますか。	
② 教材は、内容項目に照らして考えさせたい場面や事柄を取り上げていますか。	
③ 自分との関わりで主体的に考える場面がありますか。	
④ 考える必然性や切実感のある発問になっていますか。	
⑤ 友達や先生と感じたことや思ったことを交流する時間を設定していますか。	
⑥ 発問や方法を工夫して、多面的・多角的に考えさせる場面がありますか。	
⑦ 効果的な指導方法（問題解決的な学習や体験的な学習等）を取り入れていますか。	
⑧ 自己の生き方について考えることを意識させる場面がありますか。	
⑨ 児童生徒が自己を見つめ、振り返りをする時間を設定していますか。	
⑩ 評価方法や重点的に見取る視点を決めましたか。	

自分のこととして捉え、深く考えることができるよう、道徳科の授業改善に取り組み、児童生徒の心を育てていきましょう。